

Showakai Information

本年開催予定の**青葉祭**は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い**中止**となります。

同窓会を開催されましたら 松和会までお知らせください

会報に掲載させていただきます。
また学校での開催をお考えの方はテレサ館カフェテリアも使用できますのでご相談ください。

住所録データの整理に関するお願い

発送後、宛先不明となり返送される会報が年々増加しております。住所表示変更や転居による住所変更のある方、またご友人などで会報が届いていない方をご存知でしたらお知らせいただけますようお願いいたします。松和会まで郵便、FAX、電子メール等ご都合のよい方法でご連絡ください。

なお、聖セシリア女子中学校・高等学校ホームページより「卒業生のページ」→「変更届」のページからでも変更連絡が可能です。

<http://www.cecilia.ac.jp/>



《住所録データ連絡事項》

- ①氏名 ②卒業年度 ③住所 ④TEL
⑤FAX ⑥メールアドレス

①～④につきましては必須でお願いいたします。

令和元年度 松和会 会計報告

(単位:円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	¥7,714,503	運営費	
銀行・ゆうちょ預貯金利息	¥61	慶弔費	¥30,000
平成30年度卒業生会費	¥1,150,000	事務費(交通費)	¥21,224
		事務費(文具費)	¥9,379
		小計	¥60,603
青葉祭売上金	¥248,320	活動費	
セシリア祭売上金	¥64,900	会議費	¥18,319
卒業生寄付	¥0	新入会員記念品	¥96,272
小計	¥313,220	青葉祭準備金	¥173,174
		青葉祭寄付金	¥75,146
		セシリア祭準備金	¥50,640
		セシリア祭寄付金	¥14,260
		会報諸経費	¥338,016
		名簿更新・送料	¥508,573
		小計	¥1,274,400
収入合計	¥9,177,784	支出合計	¥1,335,003
		次期繰越金	¥7,842,781

*差引残高¥7,842,781は次年度に繰越いたしました。<会計>岩崎 有紀子・古田 陽子



松和会 入会式

本年2月26日、卒業式を間近に控えた高校3年生の入会式が行われました。新たに115名をお迎えし、会員数は7445名となりました。高校3年生を前にし、自身が新しい社会に入った直後、在学中に得たものは知識や友人だけでなく、知らずに培われた'思いやりの精神'と気付いたことを思い出しました。

新生活を始める生徒の皆さんにおかれましても、勇気をもって新しい世界へ飛び込んで欲しいと思います。ご活躍を祈念し、入会の記念としてロザリオをお贈りしました。
(松和会役員 渡邊 記)



編集後記 昨年90周年を迎えた聖セシリアでは、梅村司教様の司式による記念ミサと「創立90周年スペシャルコンサート」が執り行われました。スペシャルコンサートは音楽の聖人、聖セシリアの名を持つ学校としてふさわしく、国内外で活躍する音楽家になられた卒業生による素晴らしいものでした。

前身である大和学園から始まった90年の学校の歴史は時代背景とともに変化していますが、表紙にある聖堂に灯る火のように創立時の建学の精神は変わらず引き継がれていきます。これから100年目の節目に向けて前進していきますが、今後どのように変わっていくのか、また「こんな素敵な卒業生」の特集でどんな方々がこれから活躍されていくのか楽しみです。(松和会役員 渡邊 記)

◆お問合せ先◆ 聖セシリア女子高等学校同窓会「松和会」宛 TEL:046-275-3727 FAX:046-275-4080 E-Mail:mailto@cecilia.ac.jp



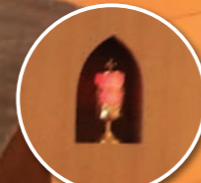
Confido
信じ・希望し・愛深く
Desidero Diligo

St.Cecilia OG会
松和会会報39号
発行●学校法人 大和学園
聖セシリア女子高等学校
同窓会「松和会」
住所●〒242-0006
神奈川県大和市南林間3-10-1
TEL ●046-275-3727
会員数●会員数7,445名(2020年4月現在)
発行日●2020年5月1日



聖堂

真のカトリック学校と称するため、キリストの証である「御聖体」は創立者 伊東静江先生の念願であった。建学40年目にして、ついにローマ法皇庁からの正式な許可を得ることができ、御聖体のありかを告げる赤い灯は今も聖堂の中で灯し続けられている。



CONTENTS ■表紙 聖堂

- ごあいさつ 前校長・校長・会長…………… P2
- 創立90周年記念コンサート 先生便り 記念ミサ P3
- こんな素敵な卒業生…………… P4-5
- 青葉祭報告・同窓会だより…………… P6
- 聖セシリア祭報告・同窓会だより…………… P7
- 松和会INFORMATION 会計報告…………… P8
- 青葉祭開催中止のお知らせ 他

退任のご挨拶

前校長 青柳 勝



1988年に始まった聖セシリアでの教員生活を終えることになりました。昨年初めて担任を持った時の卒業生が私の還暦のお祝いをしてください、また秋にはその学年の同窓会が開かれ、自分の教師生活も一巡したような不思議な満足感を感じました。こういう気持ちを持って退職できることを幸せに思っております。これも卒業生・保護者・教職員の皆様から頂いたたくさんの励ましやご支援のお陰であると感謝いたします。

後任にはずっと身近で私を支えてきてくれた森永浩司が校長に就任いたします。少子高齢化の波が学校にも押し寄せ多難な時代を迎えておりますが、これからは私に賜りましたのと同様のご支援を頂きますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶

新校長 森永 浩司



2020年4月より中学校・高等学校の校長職を拝命いたしました。

平成元年に奉職して以来、31年の月日が経ちました。

私が初めて中高を訪れたとき、松林の向こう側に木漏れ日に包まれた2階建ての高校校舎のたたずまいが今でも鮮明に思い出されます。その風景も時代とともに変わり、今では装いも新たに大きな発展を遂げました。90年の歴史を持つ学園の伝統を受け継ぎながら、これからは新しい時代に向かっていくことの重責を痛感しております。

この学園で学び、未来に羽ばたく子どもたちの成長のお役にたてるよう尽力してまいります。引き続き中学校・高等学校へのご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

子どもたちの夢を祈る

松和会会長 原 信江 (1974年卒業 旧姓 伊勢)



2019年度は創立90周年でしたので、在校生、卒業生と学園の歴史を振り返ることがありました。ローマ教皇も来日され、生徒とともに教皇ミサに参加し、多くの人たちとともに祈るという貴重な経験もしました。「祈りの人」といわれた創立者伊東静江先生は、「勇敢に戦い、走るべき道を走り尽くし、信仰を守り通しました。」というパウロの書簡の言葉通り生きられた方であり、祈りの心を教導してくださいました。井上ひさしさんは、自分がめぐり会ったカトリックの教えを持った人は優れた人であった。つまり「宗教は人のことだ」という言葉が使われていましたが、静江先生もキリストの教えをもとに生きていた修道女に出会い、カトリック精神に基づいた女子教育こそ必要不可欠なものと考えました。そして、「神を愛するが故に、他人をも我が身の如く愛する」という教育を実践してきました。時代を超えて様々なことが変化していますが、創立者の信念は、神様によって呼び集められた子どもたちに受け継がれ、卒業後も社会の中で生かされていると感じています。青葉祭、聖セシリア祭、日々の学校生活の中で卒業生が来校して嬉しいことは、置かれた場で愛されていること、隣人を愛する人として生きていることです。

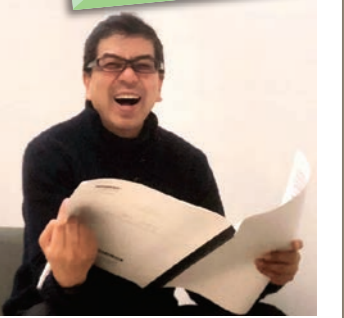
今年になり、土曜講座「親と子のための教会訪問」を二俣川教会で開講いたしました。神父様は、とくに子どもたちのために祈り、ご自分の人生、夢について話されました。「自分の夢を育てるだけではなく、他者の夢を育んでいかなければならない」というメッセージがありましたが、これからは生きる子どもたちの様々な夢のために寄り添い、支援してまいりたいと思っております。



卒業生の著しい活躍

～創立90周年 スペシャルコンサートから～

2007年～勤務音楽 坪井 伸親 先生



年の瀬も近い12月23日に、やまと芸術文化ホールにおいて、聖セシリアを卒業後、音楽界で活躍するメンバーによるスペシャルコンサートが開催された。出演者の半数は海外で音楽活動中であるため、年末の実家に戻ってくるタイミングに日程を調整することで実現できた。

近年、世界の音楽界はアジア系音楽家の活躍が目立つようになってきたが、この演奏会でセシリアからも世界に通用する人材が育っていることを実感できた。普通科高校であるセシリアから、僅かな期間にこれだけ多くの優秀な音楽家が輩出されたことは特筆に値するだろう。振り返ってみると、今回の出演者は、高校生の時から音楽の中に「何か」を見い出そうと強い意志で立ち向かってきたように思う。高校を卒業した後は、国内外で音楽の研鑽を積み、コンクールでは上位入賞を果たしている。音楽と言えども、それが仕事となると「楽しい」とは言っていない。常に様々なものと闘い続けながら自分の活動の場を勝ち取っていかねばならないからだ。今回、ステージ横で演奏を聴きながら、出演者全員に共通して感じたことは、厳しい音楽の中に、楽しみを見い出す力を持っていたということ。そこに、彼女たちの内面の強さを見た。

今も毎年、音楽家を目指す高校生がセシリアで学んでいる。今回出演した音楽家の皆さんには、彼女たちにとって、より高い目標となるように活躍し続けてくれることを望みたい。



数々の卒業生による<創立90周年 スペシャルコンサート>の様子

90周年記念ミサに参加して

11月21日、学園創立90周年記念ミサが執り行われました。梅村昌弘司教様よりローマ教皇が38年ぶりに来日された際の来日テーマ「PROTECT ALL LIFE」についてお話しいただきました。「神様は一人ひとりを慈しみ、大切にし、認め、愛し、慈しんでくださっている。全ての命を大切にするという神の愛を心に刻み、100年先までもカトリック教育を続けてほしい」と語られました。

当日は卒業生、故関桂子さん脚本による「MARCHING-明日へ」も記念上映されました。(松和会役員 岩崎 記)





フランス歌曲の魅力

坂田 奈緒子 (2008年卒業)



小 中高と12年に及んだセシリアでの学園生活は様々な感性を育んでくれました。先生方の深い愛情のもと、友人たちと過ごした日々は宝物です。中でも特に思い出に残っているのは、歌声に乗せて表現することの喜びや皆でひとつの作品を作り上げていく面白さを体感した中学3年での合唱会です。その時演奏した『聞こえる』という作品は、15年経った今でも暗譜で歌えるほど強く印象に残っています。

卒 業後音楽大学の声楽家に進学し、フランス歌曲に出会いました。発音の難しさからなのか日本では演奏される機会の少ないフランス歌曲ですが、私は個性豊かな作曲家が生み出す、多種多様でエスプリの効いた音楽の虜になりました。

高校三年記念発表会にて独唱する坂田さん

大 学院在学中、来日されていた後の恩師であるMireille Alcantara先生の指導に強く感銘を受け、現地に身を置いて先生のもとで学んでみたいという思いが膨らみました。大学院卒業後、先生が教鞭を取られているパリの音楽院に迎えていただけることになりました。

留学生活は泣いて笑って、色々なことがありましたが、私を遅くそして柔軟にしてくれました。率直な意見をくださる現地の方々を前に、コンサートや演奏会をさせていただいた経験は何にも代えがたい学び、またいただいたブラボエの声は自信につながりました。ソリストとして歴史ある教会でオーケストラや合唱団の方と共演させていただいたこと、国際音楽コンクールにて第3位を受賞したこと、かけがえのない恩師・仲間との出会いなど思い出はここでは語りつくせません。



音楽院のクラスメイトと。左から2番目がMireille先生、3番目が坂田さん

4 年弱のパリ生活を終え去年の夏に帰国し、現在はフランス音楽の魅力を一人でも多くの方に伝えることを目標に、国内を中心に演奏会・コンサートに出演また企画開催しているほか、披露宴や企業パーティーなどでも演奏をしています。昨年12月に行われたセシリア90周年スペシャルコンサートではセシリアを巣立った才能豊かな音楽家の皆さんと共演させていただきました。このような形で再びセシリアとのご縁をいただき、とても懐かしく嬉しく幸せなひとときでした。



パリ国際大学都市日本館でのコンサート。藤田嗣治の作品をバックに。

恩師より 坪井 伸親 先生(本校教諭)

軽やかに高校生活を送っていたのが印象的な坂田さん。難しい音楽課題を自分らしくかわしていく姿に、柔軟性を感じていました。

卒業後、フランスでの活躍を頼もしく思っていたが、昨年のリサイクルで成長ぶりを聴かせてもらい、「セシリア90周年コンサート」にお誘いしました。私の曲を「あの坂田さん」がしなやかに歌ってくれた、感慨深い日となりました。



自衛官となる夢をかなえて

田中 結貴 旧姓 中川 (2007年卒業)



前列のセンターが田中さん

聖 セシリアを卒業した後、1年間大妻女子大学に在籍し、その後防衛大学校を経て、海上自衛隊(厚木航空基地)に所属している海上自衛官です。現在は育児休業中で2人の息子の育児に大忙しです。

在 学中、政治・行政に興味を抱き、安全が国の根幹と考え、自衛官となり安全保障政策の一端を担いたいと幹部自衛官を養成する防衛大学校を目指しましたが、女子文系は定員5名という激戦。大学・バイト・予備校と三足の草鞋で仮面浪人をしました。様々なアルバイトで予備校代を稼ぎ、大学1年生のうちに取得可能な全ての単位を取り、その結果防衛大学校第56期生として入校を果たしました。

入 学後は想像以上に厳しい生活で、最初の1週間で同期は100人近く辞めていきました。1学年では主に東京湾を8キロひたすら泳ぐ訓練や、重装備での40キロ行軍を経験し、陸海空と専攻学科が分かれる2学年で、海上要員の国際関係学科に進むことになりました。訓練だけでなく一般大学よりも多い152単位の取得が必須であり、別に訓練の試験、運動部加入義務があり4年間で本当に頭と体を鍛えられました。一番きつかったのは3学年時の重さ10キロを背負い、腰には1キロの水筒を付け、重い軍靴を履いて5人1チームで高低差50m、8キロの山道を走る断郊という競技会でした。

卒 業後は海曹長という階級で幹部自衛官に任官。幹部候補生学校で防衛大以上の厳しい生活(瀬戸内を16キロ泳いどり等)を1年間。さらに卒業式の日にそのまま護衛艦に乗り込み約8ヶ月の世界一周遠洋航海訓練を経て2013年に幹部として最初の配置である厚木航空基地に着隊しました。職域は航空装備という航空機の運用や整備計画を立てたり、将来的な航空機における国防計画に携わるものです。着隊すると自分の父親ほどの年齢から高校卒業直後の子まで、総勢約40人の部下を持ちました。知識も経験も全く無い私が、その道一筋でやって来た職人の域にいる隊員の上司となることに本当に不安を覚えたのを今でも覚えています。



史跡研修 カナダ歴史博物館にて



最 近は防衛省・自衛隊でも女性の活躍が目覚ましく、様々な分野で女性自衛官が活躍しています。女性の部下も増えてきたため、女性ならではの視点で指揮・統率をするにあたり、中高6年間は人生の基礎となっております。

私 は女子校から、男性ばかりの職業を選び、そして母になったからこそ、女性としてどう生きるかということを常に意識して模索しています。社会に出ると日々の仕事に忙殺され[生き方]をじっくり考えることはできません。そのため、女性だけの中で、自分のやりたいこと、興味のあること、どう生きるかをじっくり腰を据えて考えた6年間は私の人生において、とても貴重な時間でした。

恩師より 戸井 佳津子 先生(本校教諭)

結貴さんが高1で日中交流に関する作文に入選。その賞で上海に行ったと知り、頼もしく思ったのが最初の出会い。高2の時、英語の授業を持ち、彼女が日本の将来に貢献するための自衛官になる夢を持っていると知りました。その後ハードな受験や訓練をくぐり抜け、夢を叶えた結貴さん。育休中の今も被災地支援のために保育士の資格を取ろうとするなど、柔軟かつ軸がぶれていないのが凄いです。

青葉祭報告

2019年5月26日

元号が変わって初の青葉祭が5月26日、季節外れの暑さの中開催されました。学校側からは水分補給を徹底するようにとのお達しがある程の晴天で、恒例のこおりやさんにとっては絶好の販売日和になったようです。

松和会ブースでの新しい定番商品として、同窓のパティシエ小澤さん作、校章サブレ(プレーン・ココアの2種類)が加わりました。今回のキャンディはセシリアブルーのソーダ味に戻し、こちらも好評をいただきました。定番のサブレ・珈琲等も合わせ、売上金額75,146円を学園に寄付させていただきました。

当日の厳しい暑さにお手伝いいただいた方々には大変だったと思いますが、顔を出してくださった同窓生と歓談しながらの楽しい一日となりました。(松和会役員 手嶋 記)



卒業して何年たっても温かい居心地の良い場所です。また来年も来ます!



卒業してから、あまり来校する機会がありませんでしたが、毎年この時期になると、セシリアのことを思い出します。今年は来られて良かったです。



息子と来ました。子どもはリュウソウジャーに会い握手できて大喜びです。私は沢山の先生方にお会いできて心がホッとしました。



昭和31年の卒業生です。青葉祭は懐かしく私の在学時代も開催していました。その頃、米軍の家族の方々もお見えになって、楽しい思い出です。



聖セシリア祭・松和会総会

2019年10月19-20日

2日間に渡って開催された聖セシリア祭において、松和会では卒業アルバムの展示、松和会オリジナルのサブレ、珈琲、キャンディの販売をいたしました。スリランカより一時帰国中の卒業生による紅茶の販売など校舎内は在学生、保護者、卒業生などたくさんのお店でにぎわっていました。

また初日に松和会総会を開催し、テレサ館カフェテリアにて多くの卒業生出席のもと、活動報告をいたしました。難病のお子様との思い出作りの一環として母校を訪れたという卒業生の方はご家族で出席され、「今まで人の目が気になってベビーカーのわが子を周りから見えないように連れていたのですが、今日校内に入ると中学1年の生徒さんに『かわいいですね』と自然に声を掛けられました。そのあとはベビーカーのフードを開いて過ごしましたが、とても嬉しかったです」と挨拶をしてくださいました。心温まるエピソードを聞かせていただき、終了時間まで学年問わず交流を深めました。(松和会役員 伊藤 記)



セシリアを通じて知り合った方は共感することが多く、その後の人生のなかでずっと残っていく関係です。いつ来ても温かく迎えていただきいつもホッとする場所です。

今、大学生です。もう少しで社会人になるけれどこういう時期ほど、セシリアに来たくなります。やさしく出迎えてくれる懐かしい先生たち。この時期になってセシリアでよかったと思います。

校舎に入った瞬間「ああ、懐かしい」と思わずにうれしかった雰囲気を残しつつ、在学中にはなかった建物もあり時の流れを感じました。創立90周年おめでとうございます。

卒業アルバムを久しぶりに見ることができました。高校生の頃の懐かしい写真の友人や自分を思い出すことができ、とても感激しました。いろいろな年代のアルバムもみられて楽しかったです。

いつ来ても外観が変わっても先生方があの頃の笑顔で迎えてくださることがとても幸いです。あの頃の6年が私の血肉になっていることに感謝。

親子共々、セシリアでお世話になっております。ホッとする場所です。

同窓会だより



大声で笑って歌う やまとなでしこたち

2018年卒業 野村 美並



良くも悪くも楽観的。最上階から職員室まで毎朝聖歌を響かせ、授業中余談になると居眠りから目覚める。この学年は、明るさと素直さが自慢の70期生です。

成人式当日はそんな私たちにぴったりの快晴でした。当時は苦手な勉強を後回しにすることがほとんど。レコーディングスタジオ(1週間の学習記録)が生まれたのも私たちの代からだったようです。それでも12名もの先生方が晴れの日に駆けつけてくださいました。一瞬で笑い合った日々に戻り、歓談の時間はあっという間。気づけば合唱の時間となり、謝恩会で披露したブルーハーツの「トレントレイン」を袖を振って熱唱しました。

卒業して早2年。門出を迎えた私たちは変わらず元気で飾り気のないまま。品格を身に着けたくても、身に着けきれない。それも自分らしさ。私たちがりのやまとなでしこを目指して輝く女性になりたいです。

しあわせのコトバ



1992年卒業 鈴木 由美子(旧姓 飯室)



2019年11月16日土曜日 14:00 快晴 カフェテリア
1992年(平成3年度)高校卒業同期が集い、20年ぶり2回目の同期会ティーパーティを開催しました。県外、海外からも飛んで来てくれた45名の同期生たち。卒業から27年経ったなんて信じられないくらい、在学当時の面影たくさん。そしてお立ち寄りくださった先生方のお懐かしいお顔ぶれ。ホテルのケーキと珈琲&紅茶を囲んで、フルートと電子ピアノの生演奏で聖歌もたくさん歌って、笑顔いっぱいの本当に楽しい楽しいひとときとなりました。

毎年青葉祭に松和会有志として『こおりや』を出店させていただいているわたしたち。ぼろっとつぶやいた『同期会やりたいなあ』の一言が、まさか現実になるなんて。同期会お知らせハガキやラインでつながってくれたみなさん。参加出来なかったけど応援してくれたみなさん。当日いろいろの調整をして集まってくれたみなさん&調整に協力してくださったご家族&ご関係のみなさん。そしていつも門扉を広く開けてくださっている先生方。ただただ感謝しかありません。ありがとうというしあわせのコトバがどうかみなさんに届きますように。次回は5年後。ぜひいらしてください!!